



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2006.3

No. 263

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



アラスカ州セントローレンス島ギャンベル探鳥記

長嶋宏之(蓮田市)

2005年5月27～30日の間、アンカレッジからノーム経由で、セントローレンス島のギャンベルに行く機会を得て、野鳥を83種観察できた。以下はその時の探鳥記である。

ヒルサイドトレイルの小鳥達

アラスカは日本の4倍の面積で、人口60万人、その内アンカレッジに26万人、周辺に4万人。人口密度0.7人/km²。正に国土全域が大自然だ。基盤の目に区画された市街地から車を30分も走らせると、そこはもう針葉樹林に包まれたヒルサイドトレイルだった。適度に高低差がある遊歩道はいくつかのコースから成り立ち、自然の森を楽しめる工夫がされている。

まず眼に入ったのは、梢で轉るハモンドメジロ、タイランチョウ、続いてナキイスカ、セジロアカゲラ。木立の隙間からシロハラコツグミ、キツタアメリカムシクイ。ハクトウワシも頭上を飛び、我々のこれからを祝福した。

ラビットクリークは野鳥の楽園

遠く残雪の残るアラスカ山脈に吸い込まれるように、水草の緑の絨毯が広がる。ここは水鳥の楽園ラビットクリークだ。

空にはキョクアジサシが華麗に舞い、アカエリカイツブリがペアーで泳ぎ、アシの浮き株にはオオホシハジロが営巣していた。アカエリヒレアシシギは綺麗な夏羽を見せてくれ、アメリカヒドリは近すぎてファインダーに入らない。危なくアメリカコガモを見落とすところだった。



ラニー・フレシャー・チェスター・クリーク

アンカレッジの公園は、ちょっとしたベンチの他は建物などなく、遊歩道が完備している。人々はマウンテンバイクやランニングなど、思い思いに余暇を楽しむ。

ここラニー・フレシャー・チェスター・クリークもその一つだ。腰の白いスミレドリツバメが水面近く飛び交い、シジウカラガンが数羽日向ぼっこをしている。そばでオオキアシシギとコキアシシギとが並んで採餌。海辺に出るとボナパルトカモメ、ハドソンオオソリハシシギがいた。帰途、ミヤマシトドが春の喜びを高らかに囀ってくれた。

ユーコン川は野鳥の故郷

アンカレッジからあの犬ぞり大会のゴールで名高いノームまで、約2時間の飛行を楽しんだ。右側に雪で覆われた一際高く鋭く連なる山々はマッキンリー山か。眼下に湿原の間を緩く蛇行するのはユーコン川か。豊かな湿原は正に野鳥の故郷。もし私がガンやカモであったなら、どのような苦勞もいとわず、この地に帰ってくるだろう。

ノームは白い乾いた土地だった。空港近くの川岸でキイロアメリカムシクイが、灌木の間を飛び回っていた。頭上は黄色いキガシラシトドもいたようだ。

セントローレンス島の地に立つ

5月28日のベーリング毎朝静かで、我々を乗せた小型飛行機が調子よく飛んでいた。行く手にシベリアの山々が頂きに雪を冠して見え始めたとき、機体は大きく旋回し、何も無い淡灰色の大地に滑り込んだ。肌を刺す冷たい空気と強い風。迎えてくれたおっちゃん笑顔が、何処か人懐かしい。

数十万羽のケワタガモ類の雄が、アラスカ北部のバロー岬辺りで換羽したのち、ベーリング海峡を南下してセントローレンス島の沖合いを

通り抜け、越冬地に向かうことを知って胸を躍らせたのはいつのことだったろうか。その頃から頭の隅に仕舞っておいた地に、今、立ったのだ。

ギャンベルは北極圏までもう少し

セントローレンス島はノームから 350 km、シベリアまでは約 60 km のベーリング海に浮かぶ小島で、西経 170 度北緯 63 度、北極圏までもう少しのところに位置する。

ギャンベルは島の北端にあり、人口約 700 人、大半がシベリア・ユピック族で捕鯨が認められている小さな村だ。村には道路がなく、住所番地もない。高校までいける学校と銀行を兼ねたストアと教会が夫々一つずつある。話す言葉は英語だが、村人の顔つきは、いつもの探鳥会で会う友人に何処か似ていて、ギャンベルにいることを忘れさせてくれる。



ギャンベルは禁酒法の生きた村だった

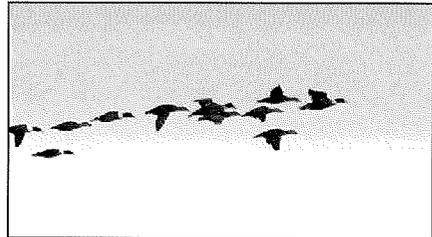
5月29日の夜は戦勝記念日のお祭りだった。子供達を着飾って村の公民館に集まり、大人達が歌いながら打つ、アザラシの胃袋の皮で作った団扇太鼓のリズムに合わせて、ダンスを見せしてくれた。大人達は陽気だったけど素面だった。ギャンベルには禁酒法が生きていたのだ。帰途、ここではベンツより高級なバギー車「HONDA」が迎えに来た。

石ころの下はまだ凍っていた

山の麓まで広がる石ころだらけの原野。ところどころで枯れ草が風にたなびき、極北の厳しさを訴えていた。あと一月もしたらこの草も新しい命の息吹を萌え出させるのだろうか。凍土がとけてできた僅かばかりの水溜りに、ミズカキチドリが1羽、傾いた日差しを背に受けて丸くなっていた。

ツノメドリ&エトピリカ

晴れた日は遠くシベリアの山々が白く見える。沖合をエトピリカやツノメドリが、左から右にせわしなく通りすぎる。何故かいつもハシブトウミガラスが先頭だ。波間に浮んだツノメドリが鯨に驚いて飛び上がった。



ケワタガモ

それは突然やってきた。

一羽の茶色い大きな鳥がゆっくり通りぬけた。メガネケワタガモだ。感激の余韻が収まらないうちにオデコが黄色のケワタガモ、雄の成鳥もいる。コケワタガモも来た。ホンケワタガモはペアだ。ピロードキンクロの群れも続く。待ちにまった瞬間だった。興奮が収まった沖合で、フルマカモメがゆったりと風を受けていた。

オガワコマドリ&ツメナガホオジロ

アイボリーアートを作る為、セイウチの牙を掘り出した穴がそこここにある、村の外れのボーンヤード。米人バーダーが20人近く一列になって、オガワコマドリを追っていた。列が止まったその時、「飛んだ！」赤茶色の尾羽が目には焼きついた。米人バーダー達が去ってどれほど時間が経ったろうか、ボーンヤードにツメナガホオジロの轉りがもどり、ユキホオジロのつかいが足元から飛び立った。

別れの朝

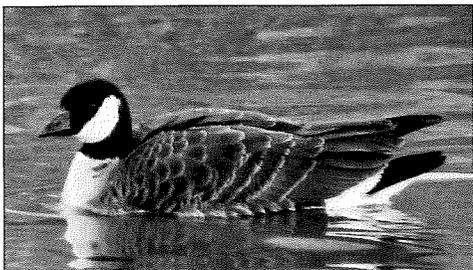
朝霧に包まれた静かな朝だった。昨日まで見ていた Sevuokuk Mountain が今朝は見えない。飛行機は飛ぶのだろうか。

参考資料

- ①『とりの渡りを調べてみたら』ポール・ケリ
ンガー著 丸 武志 訳 文一総合出版
- ②『アラスカ、セント・ローレンス島探鳥記』
報告 2005年 大関義明

野鳥記録委員会の最新情報

●シジュウカラガン



英名 Canada Goose

学名 *Branta canadensis*

分類 カモ目カモ科コクガン属

2005年12月27日、戸田市彩湖南部浮島付近で倉林宗太郎によって同様の個体が発見され(写真なし)、2006年1月2日以降朝霞市上内間木の鴨川などで、多くの人に観察撮影されました。上写真は1月8日、海老原美夫が鴨川で撮影したものです。

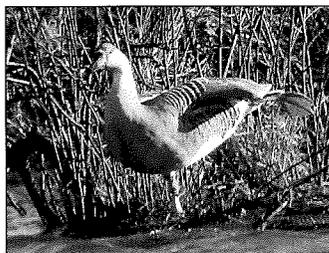
右脚に番号などが読み取れない金属足輪、左脚に「75」と記された赤い足輪が装着されていました。この足輪をもとに調べたところ、
1, 仙台市立八木山動物公園、日本雁を保護する会、ロシア科学アカデミーカムチャッカ生態学研究所などが1980年から続けているシジュウカラガン回復計画により、
2, カムチャッカ生態学研究所附属の飼育施設内で2000年6月8日に生まれた母親と、アメリカのアリューシャン列島バルディール島で捕獲され2001年8月6日にアメリカからロシア科学アカデミーに提供された父親との間に、2005年7月2日に生まれ、
3, 飼育施設内で成長して、2005年8月19日、エカルマ島(北部千島列島)までヘリコプターで運ばれ放鳥されたものであること、
4, 今冬は、同じく放鳥されたシジュウカラガンが、宮城県や栃木県などでも発見されていること、
が分かりました。

本種は1925年3月と1929年2月に越谷市の宮内庁鴨場で捕獲された記録がありますが、当委員会が県内野鳥リストの対象としている

1978年4月以降の記録はありません。

本個体は人工的環境内で繁殖飼育、放鳥されたことが明らかであることから、県内野鳥リストには追加しないと、委員会としては判断しました。

●サカツラガン



英名 Swan Goose

学名 *Anser cygnoides*

分類 カモ目カモ科マガン属

2006年1月15日、久喜市と葛蒲町にまたがる久喜葛蒲公園の昭和沼で、長谷川訓寿によって撮影され(上写真)、17日ころまで2羽が、10mくらいまで近づいても逃げようとしないう状態で観察されました。これは、春日部市南区5丁目の大池親水公園で放し飼いにされているサカツラガンの内の2羽である可能性が否定できないと判断しました。

同園では、7年前に狭山市智光山公園の動物園から寄贈を受けたサカツラガンを、ケージなどが全くない放し飼いの状態で飼育しており、毎年何羽かが繁殖しているが、年を経ても個体数が特に多くなることはないとのこと。つまり、毎年何羽かが、そこから飛び立っているのではないかと考えられるわけです。個体数の正確な記録、足輪装着などは行われていません。

2001年4月10日ごろ、さいたま市深作沼で撮影されたサカツラガンについて、「自然分布であるとの確証が得られないので、県内野鳥リストには入れないでおく」との当委員会の判断を、本誌同年8月号(第208号)で発表しましたが、今回も同じ扱いとすることにしました。



野鳥情報

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇11月4日、カイツブリ、カルガモ、マガモ、ヒドリガモ、コゲラ、カワセミ(声)、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、モズ、ウグイス、ジョウビタキ♀、キビタキ♀、シジュウカラ、アカハラ♀、メジロ、アオジ、カケスなど計24種。11月8日、カワウ、アオサギ、コガモ、カルガモ、マガモ♂1羽♀1羽、ヒドリガモ、イカルチドリ4羽、カワセミ(声)、ヒバリ、モズ、ウグイス、アオジ、ホオジロ、ジョウビタキ♀、アカハラ(声)、ベニマシコ、カケスなど計29種。11月10日、カワウ、アオサギ、コガモ、カルガモ、マガモ♂1羽♀1羽、ヒドリガモ、イカルチドリ5羽、ユリカモメ、カワセミ(声)、モズ、コジュケイ(声)、アオジ、ジョウビタキ♀2羽♀2羽、アカハラ1羽、シロハラ1羽(初認)、ツグミ(声)、ベニマシコ♂1羽+1羽(飛)、カケス(声)など計35種。11月13日、オオタカ若鳥1羽が樹間で辺りを見回し、珍しくトビが旋回。11月24日、ハイタカ飛翔。12月6日、村国池でカルガモと共にマガモ♀1羽。カワアイサ♂1羽、元荒川上流へ飛翔。イカルチドリ、イソシギ3羽、ユリカモメ約10羽、オオタカ若鳥1羽飛翔。オオタカ成鳥1羽、元荒川岸でカルガモを食べていたが、ハシブトガラスに追われて飛び去る。アカハラ、シロハラ、ツグミ、カケスなど計35種。12月7日、ツグミ、シロハラ、ヒヨドリが一緒に水飲み。元荒川では、オオタカの出現にヒドリガモの群れが逃げさる(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区長宮 ◇11月10日、300m程の両側田んぼの農道でキセキレイ1羽、ハクセキレイ5羽、タヒバリ6羽、ヒバリ5羽、カワラヒワ4羽。すぐ南の側溝で採餌するタシギ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区大戸 ◇12月13日、葦原と田んぼの中の砂利道を車で走行中、脇道100m程先にコジュケイらしき鳥を見つけ、車内から観察。その内もう1羽が出現。なん

と額から眉斑、喉が真白。どうやらコリンウズラ♂1羽♀2羽のよう。初めて見た(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区新方須賀 ◇12月13日、元荒川にかかる永代橋付近で流れの中に降りているセグロカモメ成鳥1羽、少し上流にヒドリガモ約180羽の群れ。他にカルガモ、コガモ、オナガガモ♂1羽など。オオタカが飛来、ハシブトガラスに追われ、飛び去る(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区彩湖 ◇11月17日、彩湖でオオバン18羽、カンムリカイツブリ10羽、ユリカモメ多数(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇11月17日、子供の森でアカハラ若鳥2羽。12月8日、子供の森で1本のムクの木にアカハラ約10羽、シロハラ数羽(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇11月17日、B区で荒川の対岸、遙か西側上空をタゲリ約50羽が飛翔。A区でノビタキ1羽、まだいたの? 12月8日、B区で木にとまるノスリ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区大谷環境広場 ◇12月7日、タシギ8羽、イカルチドリ7羽、ツグミ8羽、カワラヒワ100羽+、カシラダカ、ハクセキレイなど。12月9日、クサシギ1羽、タシギ11羽、イカルチドリ9羽、タヒバリ、ハクセキレイなど。12月16日、タシギ18羽、イカルチドリ9羽、ツグミ3羽など(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区第三公園付近 ◇12月23日、公園内にツグミ10数羽、シメ1羽、芝川にカルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、ユリカモメ、土手のブッシュにホオジロ、アオジ、ジョウビタキが飛び、やっとう冬鳥が揃ってきた。池に氷が張り先日まで居たオカヨシガモの姿が見えなくなったのが寂しい。それにしても今年の冬はどうしたのだろうか(赤堀尚義)。

さいたま市緑区 ◇12月30日、同じ日に見沼田んぼ3ヶ所でタゲリを見ました。見沼代用水東縁総持院前田んぼで2羽。見沼田んぼ片柳台地と芝川の間の畑で3羽。見沼

田んぼ北宿大橋の袂の畑で1羽。北宿大橋近くは探鳥会のコース途中であり、久しぶり。探鳥会までお願い(楠見邦博)。

蓮田市黒浜 ◇11月8日、上沼北側のブッシュと田んぼの境でカシラダカ3羽初認。療養所内でシメ1羽。11月9日、療養所内でエナガ10羽。11月15日、上沼北側でシメ飛翔。葦原の陰から出た瞬間、小道から脇の湿地のブッシュに3歩ほど走って潜り込む小さめのクイナ類の姿。もしかしてヒメクイナ? 11月16日、上沼周辺でクイナの声、ベニマシコ、シメ飛翔。療養所内でアカハラ、シロハラ、ツグミ。オオタカ上空を飛ぶ。ゴルフ場南側の田んぼでタゲリ7羽。川島橋すぐ上流の元荒川でイカルチドリ16羽。12月11日、上沼で東側上空高く飛ぶノスリ1羽。さらに南東へ飛ぶツミ1羽。上沼では、カルガモ、コガモ、オオバン、カイツブリ、カワウ、マガモ♀3羽、オカヨシガモ♂3羽♀2羽。療養所東縁でアカハラ、シロハラ、ツグミ、シメ、オオタカ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、コゲラ、アオジ、ウグイス。12月19日、上沼でカワセミ♂1羽、マガモ♂1羽♀3羽。療養所東縁でルリビタキ♀1羽、クリクリした目に久しぶりに会えた(鈴木紀雄)。

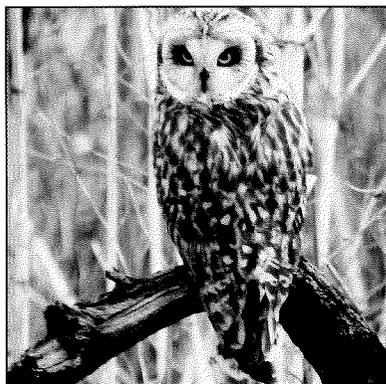
蓮田市蓮田 ◇12月6日午前6時頃、根ヶ谷戸公園で「チュイーン、チュイーン、チュルチュル」のような声。見上げると木に10羽位のマヒワの群れがしきりに行き交っていた(本多己秀)。

春日部市内牧 ◇11月9日、宮代側でツグミ1羽、クロジらしき声、数ヶ所から(鈴木紀雄)。

春日部市南5丁目大池公園 ◇12月13日、キンクロハジロ約100羽、コガモ15羽、ユリカモメ約80羽(鈴木紀雄)。

上尾市原市 ◇11月11日、県道大宮栗橋線の南側の一角にある池でクサンギ1羽、カワセミ1羽など。サギ類が多い(鈴木紀雄)。

菖蒲町小林 ◇11月11日、ニューナイスズメ約300羽が電線にとまったり、田んぼに降りたり。集団性が強い。12月19日、電線にニューナイスズメ♂2羽♀1羽、1ヶ月程



コミミズク(大澤 祐)

前には、あんなにいたのに、どこへいってしまったのか(鈴木紀雄)。

加須市加須はなさき公園 ◇12月18日、ムナグロ3羽、アリスイ1羽、ミヤマガラス約50羽(長嶋宏之)。

久喜市菖蒲公園昭和沼 ◇12月19日、トモエガモ♂6羽♀2羽、アメリカヒドリ♂1羽、カンムリカイツブリ、カイツブリ、カワウ、カルガモ、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ハシビロガモ(鈴木紀雄)。

渡良瀬遊水地 ◇12月1日、鷹見台から、ミサゴ1羽、大きな魚を食事中。チョウゲンボウ♂1羽。コミミズク1羽、土手に沿って餌を探していたようだが、カメラマンも多く、ついに上空高く上がり、何処かへ。ノスリ3羽、チュウヒ1羽。夕刻、ゴルフ場の道でミサゴ2羽、チュウヒ約3羽、ハイロチュウヒ♂2羽♀1羽。トビ多し、コハクチョウ成鳥1羽(飛)(鈴木紀雄)。

川里町屈巢 ◇12月1日、ミヤマガラス2群計約250羽の群れ(鈴木紀雄)。

本庄市利根川 ◇12月29日午後1時半頃坂東大橋下流約1キロの本流でホオジロガモ♂2羽♀11羽、上流へ団体で飛び、下流へ泳ぎながら潜水を繰り返していた。2~3羽は時々観察されるが13羽の団体は当地では初めて(町田好一郎)。

表紙の写真

カモ目カモ科オシドリ属オシドリ

松村禎夫(さいたま市)



行事案内



キジ(落合英二)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

3 月中に鉄道、バス等の時刻変更が予定されています。本案内の時刻は、執筆当時の時刻表にも基づいています。ご注意くださいします。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：3 月 4 日（土）

集合：午前 8 時 50 分、東武伊勢崎線羽生駅東口、集合後バスで現地へ。または午前 9 時 30 分水郷公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:13→久喜 8:27→羽生 8:46 着。または JR 宇都宮線大宮 7:55→久喜 8:15 着で、東武伊勢崎線乗り換え。

担当：中里、和田、榎本(秀)、宮下、四分一、栗原、植平、飛田

見どころ：木々が芽吹き緑が目立ち始め、花も待ちきれずに顔を覗かせています。北への旅立ち前の冬鳥を田園風景の中に探してみましよう

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3 月 5 日（日）

集合：午前 8 時 40 分、JR 宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、松永、榎本(建)、青木、吉安、鬼塚

見どころ：梅が咲いて、鳥たちも旅立ちの準備に忙しい季節。ウグイスのさえずりの練習が聞けるかもしれません。足元のタンポポなどの草花を眺めながら、小さい春も見つけます。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3 月 5 日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道寄居駅南口駅前広場。

交通：秩父鉄道熊谷 8:51 発、または東武東上線川越 8:30→小川町で 9:07 発寄居行きに乗り換え乗車。

担当：大澤、小池(一)、喜多、後藤、堀(敏)、堀(久)

見どころ：昨年のご当地初のコハクチョウに感激。それにミサゴ、オオタカも出て 41 種の大ヒットでした。

今年も皆さんの目で耳で、大ヒットにしましょう。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：3 月 11 日（土）

集合：午前 9 時、加須はなさき公園駐車場。

交通：JR 宇都宮線大宮 8:04→久喜 8:24 着、東武伊勢崎線春日部 8:21→久喜 8:34 発に乗り換え、花崎 8:42 着。徒歩約 10 分

担当：長嶋、中里、玉井、栗原、宮下、四分一、植平、鬼塚

見どころ：公園側との共催探鳥会、第 3 回です。

初心者大歓迎。青毛堀川沿いを歩き、マンサクが咲く植物園に春の息吹を感じながら、小鳥たちを探します。民家の屋敷林でオオタカが迎えてくれるかもしれません。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：島田、中里、和田、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千鳥

見どころ：冬のゲストの少なくなる時期です。コハクチョウやホオジロガモはまだいるのでしょうか。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月12日(日)

集合：午前8時15分 JR 大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、日根、松村、百瀬、渡辺(嘉)、赤堀、新井(勇)

見どころ：1月のカモ類調査では個体数の減少を感じました。次回はたくさんの仲間を連れて来るよう渡り前のカモたちに皆でお願いをしましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月18日(土) 午後3時~4時ころ

会場：支部事務局 108号室

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月19日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線北越谷駅東口、集合後午前8時50分発エローラ行きバスで「松伏高校前」下車。または午前9時30分松伏記念公園北駐車場。

担当：田邊、橋口、大塚、神場、吉岡(明)、小菅、土澤、榎本(建)、野村(弘)、野村(修)、小林(善)、植平

見どころ：冬鳥たちの北帰行が始まっています。秋の再会を願って見送りましょう。心配なのはシラコバト。すっかり見つけるのが困難な鳥になってしまいました

た。大勢の目で探しましょう。
その他：松伏中央公民館との共催です。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、増田、青木

見どころ：見沼田んぼも花盛り。コブシ、モクレン、レンギョウなどの花々の中に蜜を吸いにメジロさん。楽しい鳥仲間も待っているから、冬鳥と夏鳥が交差する見沼田んぼにお出かけください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月21日(火・祝)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越 8:13→坂戸で越生線 8:42発に乗り換え。または寄居7:53→小川町乗り継ぎ、坂戸で乗り換え。JR川越線大宮7:34→川越で東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、青山、久保田、志村、高橋(勝)、増尾、佐藤(莊)、杉原、林、原、藤澤、山田(義)、持丸

見どころ：身近に見るセキレイの仲間は、羽色が白、黒、黄色。鳴き声はチュチュン、ジージー、チチンチチン。見て聞いて、楽しみながら春の高麗川を歩きましょう。

長瀨市・宝登山探鳥会

期日：3月21日(火・祝)

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:15発、8:41発(急行)、寄居8:48発、9:02発(急行)、またはお花畑8:41発。東武東上線川越7:37発(特急)で寄居乗り換え。

解散：宝登山山頂広場

担当：井上、佐久間、小池(一)、青山、喜多、堀(敏)、堀(久)、堀口

見どころ：昨年は初夏を思わせる暑さと、鳥にも振られてぐったり、がっかりでした。今年は期待して山道を登ります。
注意：花粉対策を講じてお出かけください。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月25日（土）
集合：午前9時15分、東武日光駅前。集合後、バスで「総合会館前」まで移動。
交通：東武伊勢崎線春日部7:44発「快速」日光行き、栗橋7:39→板倉東洋大前で8:10発「快速」日光行きに乗り換え、東武日光9:11着。
解散：午後2時ごろ、日光東照宮にて。
担当：玉井、福井、田中、中里、植平
見どころ：大谷川、神橋、沢沿いと東照宮裏山を歩くコースです。カワガラスやミソサザイ、山の鳥たちを期待します。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月26日（日）
集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車。
担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、山口、山田（義）
見どころ：シジウカラやヒバリがさえずり、ツバメやコチドリが渡ってくる頃です。冬鳥たちもいるので、運がよければ40種以上の鳥たちに会えます。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月26日（日）
集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。
交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行田車庫（佐間経由）行き8:52発で、「産業道路」下車、徒歩約15分。
担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井（博）、栗原
見どころ：遠望の山には雪が、でも「さきたま」の日差しは春です。鳥の世界は帰る鳥、来る鳥でにぎやかですよ！

千葉県・銚子港探鳥会（12/10～11） 久保田忠資（狭山市）

天候に恵まれ61種を観察することができました。2日間に多くのハイライトシーンがありました。その2つ3つを紹介します。

その1 トコトコ採餌—

波崎港公園前の砂浜にミユビシギを主体とした一群。その数およそ100羽、右に左に先を争って走りながら盛んに浜をつついている。その姿、トコトコトコと目まぐるしい。我先にと走る走る。この動きなにかとダブる。そうだ！探鳥会での我らの動きとそっくりだ。我々も「珍鳥出たヨ—」の声でそれとばかりにトコトコトコトコ……ですよね。夕陽に美しく照らされたシギ達を、参加者一同飽かず眺めた次第です。

その2 鳥見は足元から①—

出発時のバス内では恒例の自己紹介、なかで「今回はぜひクロサギを!!」との声がありました。さて、波崎港公園、海に突き出た防波堤の上。一同なぜか前に前に、スコープの視野ははるか遠方を盛んに探す。「何かいないかな—」とアゴのあがった状態。すると、Hリーダーがなんと足元の波消しブロックに佇むクロサギを発見、一同じっくりと観察できた次第。Hリーダー曰く「皆とは反対の方向をみると意外に鳥をみつけられるヨ」だって。

その3 鳥見は足元から②—

2日目の昼食をすませ帰途につく前の30分、念のため珍カモメを求めて再度、海岸へ。一行の目は遠方かなたの防波堤。たくさんのカモメの中になにか「珍・稀」を期待してスコープが並ぶ。しかし「鳥見は足元から」。なんと目の前海面すれすれにミツユビカモメが出現。あまりの近さにスコープは勿論、双眼鏡も休業状態、手がとどきそう。しかもこの個体、サービス心旺盛、拍手と歓声のなか、繰り返し巡回しては目の前に……。ホバリング状態までも披露してくれた。一同は十二分に堪能し、帰途についた次第です。

帰りは暖かいバスにゆられてグッスリ。幹事さんの細やかな気配りには頭がさがる思いです。おかげさまで今回も楽しい思い出をたくさん持ち帰ることができました。



行事報告

10月16日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 16名 天気: 雨後曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ミサゴ トビ イソシギ シラコバト キジバト ヒバリ ショウドウトツバメ ツバメ カワセミ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 直前まで降っていた雨も上がり、実施を決定。下宮橋でイソシギと今季初のハシビロガモ。谷中湖は学生トライアスロン大会で鳥影は少ない。それでも冬の水鳥たちが訪れはじめていた。そんな中、カンムリカイツブリが入っているよとの声。移動して全員が観察。中ノ島から北上し史跡ゾーンへ向かう。延命院への道すがら、今秋植物学会に新種と発表されたワタラセツリフネソウを観察。雨の影響で足元も悪く、早めに鳥合わせをした。(内田孝男)

11月27日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 47名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ キジ クイナ バン オオバン キジバト カワセミ アリスイ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 今年は例年になく冬鳥の到来が遅れて数も少ない。落葉も遅くて鳥が見つけにくいという悪条件だったが、上沼ではカワセミが皆の目を楽しませてくれた。最後に2001年以來のアリスイが出現し、初めて見る参加者もかなり居たことから盛り上がり、終了する事が出来た。

(玉井正晴)

11月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 21名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ オオタカ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ ベニマシコ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス (31種) 11月下旬なのにジョウビタキ、ツグミ、アオジが見られなかった。タシギが数年ぶりの登場。水辺でうろうろするイタチがよく見られ、近くに出ていたカワセミよりもうけていた。

(長谷部謙二)

12月3日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 47名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ オオバン タゲリ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 冬には珍しく穏やかな晴天。始まってすぐ、下宮橋上手でカワセミ、ダイサギが出迎え、足が止まる。谷中湖のカモ類は、数はまだ少ないがおおよその種が入っている。南ブロックではアメリカヒドリやヨシガモ。途中ベニマシコの声はすれども姿は見えず。ミコアイサや定番のマガモ、その中に1羽のホシハジロ。延命院跡地では遠くにツグミ。鳥合わせでは47種、参加者も同数だった。(内田孝男)

12月4日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 18名 天気: 曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ トビ オオタカ ノスリ オオバン イカルチドリ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ

ウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ
ハシブトガラス (34種) 林地では紅葉がまだ充分観賞に堪える状態で、季節のズレを実感。そのせいかアオジ、シメ、シロハラ等の冬鳥が全く確認出来なかった。カンムリカイツブリは100羽超の群れでまずまずだが、カモ類は種・数ともに少ない。最後に漸くツグミの小群が出て、初冬の狭山湖探鳥会を締めくくってくれた。(石光 章)

12月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 28名 天気: 曇

カワウ ダイサギ アオサギ トビ オオタカ
ノスリ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 厳しい寒さの朝。土手に出ると風が強くて顔を上げられない状態。そのため、ゴルフ場の南側のアシ原へとコースを変えた。ゴルフ場のエノキの林の中では梢の上からシメが怖い顔をしてこちらを見据えている。アシ原にはいとジョウビタキが愛らしいしぐさで迎えてくれた。途中ホオジロとカシラダカの識別の勉強会。「赤い鳥を見たい」という皆さんの願いは叶わなかった。河原に出ると冬木立の枝先にノスリが止まっていた。獲物を狙っているのかじっとして動かず、皆でじっくり観察できた。最後にカワセミが姿を見せて皆を喜ばせてくれた。(中里裕一)

12月11日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 43名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ キジ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 前半はヒヨドリが目立つ程度。しかし後半には、水管橋からカモ類を確認した後、元荒川の岸辺ではイカルチドリやイソシギ、水浴び・羽繕いをするキセキレイの姿が見られた。帰路のテストコースで、シメやモズをじっくり観察。それ

にしても、ご多分にもれず冬鳥の少ないことが気に掛かる探鳥会であった。(長野誠治)

12月14日(水) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ ハイロチュウヒ チュウヒ チョウゲンボウ オオバン イカルチドリ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ オオジュリン ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 谷中湖のカモの数は少なかったが、種類は多くて多数のミコアイサおよびカワアイサを加えて13種も出現した。加えて、チュウヒ、ハイロチュウヒ、ノスリ、ミサゴなどが次々と飛翔してくれた。平日の渡良瀬は自転車やスケートの人が少なく、のんびりと広大な自然を満喫でき、満足した。(玉井正晴)

12月18日(日) さいたま市 三室地区

参加: 41名 天気: 晴

カイツブリ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ バン オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 三室の探鳥会に出ないと年は越せないと案内したが、この冬最低の気温、土砂の飛ぶ強風。芝川から斜面林の森に風を避けて、住宅街の静かな小道を歩いて来た。途中神社にお参り、保存の署名に協力した小室山遺跡を見学。強風で鳥は少なかったが、変化のある楽しい探鳥会だった。(楠見邦博)

12月18日(日) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10名

新井浩、江浪功、海老原教子、尾崎甲四郎、佐久間博文、千野安以、檜山大介、檜山秀樹、藤掛保司、藤野富代



枯葉に同化したトラツグミ、物音に動いたの
で、見つけることが出来ました。(鶴飼喜雄)

連絡帳

●吾妻支部の支部長と事務局が変わりました
新支部長 堀込紀夫
新事務局

●野鳥記録委員会リスト追加の基準について
4ページの「最新情報」にもあるとおり、今回のシジュウカラガンとサカツラガンについては県内野鳥リストに加えないと判断しましたが、一方では、例え飼育施設からの放鳥でも、国外から渡って来たのだから、野鳥リストに加えるべきである、あるいは、飼育施設から逃げ出したものでも、放し飼いの状態で繁殖し、自由に飛んでいるのだから、野鳥リストに加えるべきである、という意見もあり得ます。

さらに、放鳥された、あるいは籠脱けした個体が人の手に頼らない状態で野外で繁殖した場合、その子どもらは野生状態での繁殖ということになります。その場合、外来種以外は野鳥リストに加えるべきであるという考え方もあり得

ます。更に判断が難しくなります。
コウノトリが放鳥され、トキの放鳥も近づいています。それらが埼玉県内に飛来した場合のことも考えなければなりません。
記録委員会としては、慎重な検討を続けます。

- 事務局の予定
 - 3月4日(土)編集部・普及部会議。
 - 3月11日(土)4月号校正(午後4時から)。
 - 3月18日(土)袋づめの会(午後3時から)。
 - 3月19日(日)役員会(午後4時から)。

●会員数は
2月1日現在 2,323人です。

活動報告

- 1月14日(土)2月号校正(海老原美夫・喜多峻次・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。
- 1月15日(日)役員会(司会:玉井正晴、各部の報告・神川元氣プラザファミリー探鳥会支援の件・その他)。
- 1月23日(月)2月号を発送(倉林宗太郎)。
- 1月28日(土)本部常務会に出席後、柳生会長らとともに東京支部の新年会に出席(海老原美夫)。
- 1月28日(土)~29日(日)役員リーダー懇親旅行。北茨城方面、25名参加。

編集後記

1月28日、沼涸でオオワシ成鳥。双眼鏡でも鼻の穴まで見えた。地元の人からは、「出現タイムは、朝の8時前後、11時から1時頃まで、そして3時過ぎ」と教えられた。(山部)
「八ヶ岳倶楽部」にフラッと行って、柳生会長に会えた方もいますが、私はハズレ。会えるかどうか運次第とは、「野鳥」みたいな会長のようです。(みどり)

しらこぼと 2006年3月号(第263号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社